

# 高信頼性と使い勝手のよさを実現した 携帯電話販売管理のASPサービス

システム管理者を社内に置くことが難しい中堅企業にとって、サーバーの管理を事業者へ委託するASPサービスはIT化の有力手段だ。テラが10月にスタートさせる新サービスは携帯電話販売会社の基幹システムをASPとして提供するもの。高い信頼性と使い勝手の良さを武器に新たなユーザーの開拓に挑む。

携帯電話販売管理ソフトのトップベンダー、テラ(本社・横浜市)は、10月1日から携帯電話販売会社を対象とした新しいビジネスソリューション「テレフォンマスターASPサービス」の提供を開始する。これは、テラが提供する携帯電話販売統合管理システム「テレフォンマスター」のASP(アプリケーション・サービスプロバイダー)版だ。

テレフォンマスターは、携帯電話を単品管理することで、在庫・販売管理から、事業者(代理店)からの受け取り手数料、傘下店への支払い手数料や端末の代金の算出、これらの伝票作成の自動化まで、携帯電話販売会社のさまざまな業務を効率化するために開発された業務パッケージソフト。最近では、顧客データの管理や会計システムとの連携による経営管理などの用途で活用されることが多くなっている。すで



サービスを提供する為のサーバー機器群がおかれる横浜コンピュータセンター

に1000社以上に導入されている業界トップシェアのソフトだ。

最近では、インターネットVPNを活用して店舗など主要拠点をネットワーク化する形で導入するユーザーが増えている。テレフォンマスターASPサービスは、この発展形といえるもので、通常携帯電話販売会社自身が設置するサーバーのアプリケーションやデータを、高度なセキュリティが確保できるデータセンター内のサーバーで預かり、ユーザーは各拠点のPCからこのサーバーにインターネット経由でアクセスするものだ。

携帯電話販売会社にとっては自社でサーバーを設ける場合と比べ、①サーバーの管理をテラに任せることができるため、システム管理者のいない企業でも容易に導入が可能である、②初期投資額を抑えることができ、月々の料金も経費として計上できるなどのメリットがある。

テラでは料金を「リースで導入した場合のコストとサポートなどの付加価値を考えれば十分検討していただける水準に設定した」という。

例えばPC1台でシス

テム管理者を社内に置くことが難しい中堅企業にとって、サーバーの管理を事業者へ委託するASPサービスはIT化の有力手段だ。テラが10月にスタートさせる新サービスは携帯電話販売会社の基幹システムをASPとして提供するもの。高い信頼性と使い勝手の良さを武器に新たなユーザーの開拓に挑む。

## 3日間の停電に耐える

もっとも、この種のASPサービスを導入するにあたっては大きなハードルがある。自社の業務データを他社に預けることへの抵抗感だ。

このサービスの大きな特徴は、極めて信頼性の高いシステムを構築することでこうしたユーザーの不安を解消していることにある。

高信頼性を実現する要素の1つが、サーバーをCRCソリューションズの横浜コンピュータセンター内に設置したことだ。この施設は、阪神大震災クラスの災害に耐えられる耐震、耐火構造であることはもちろん、外部からの電源供給が途絶えても自家発電で最低3日間はサーバーの稼働に支障がでないものだという。スーパーコンピュータの設置にも対応する仕様だというから信頼性は折り紙付きだ。当然、厳



サービス開発を担当したテラ・ソリューション事業部の平光宏志氏

重な入出者管理が行われており、人為的なデータの漏洩の懸念もほぼゼロといってよい。

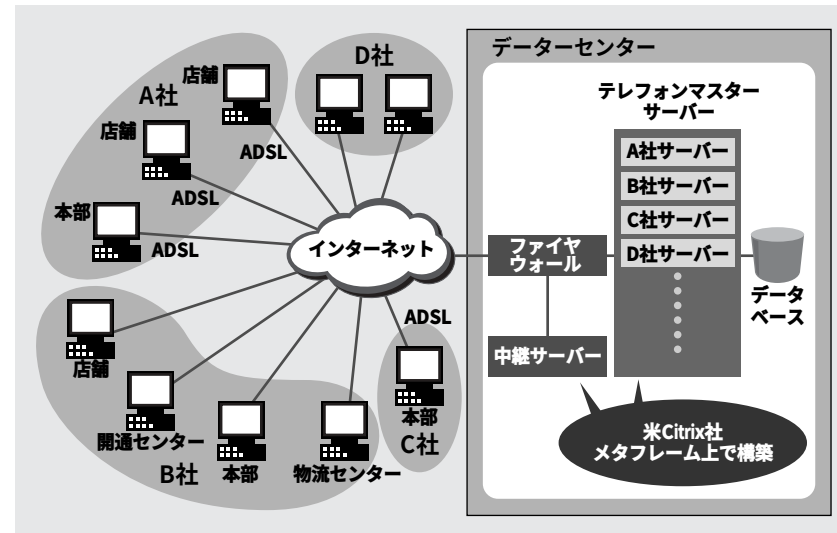
また、このデータセンターはインターネットの相互接続点が多く設置されるKDDI大手町ビルに大容量回線で接続されている。インターネットバックボーンに直結されているのだ。

さらに、テレフォンマスターASPサービスでは、1年365日24時間体制での有人監視体制がとられているだけでなく、1日に1度は確実にバックアップファイルをとる体制が整えられており、データの喪失という事態はまず考えられない。社内に自社サーバーを設置して、これと同等の管理ができる企業はほとんどないだろう。

## C/S型と同等の使い勝手

このサービスのもう1つの大きな特徴といえるのが、導入のしやすさだろう。インターネットVPNを活用し

テレフォンマスターASPサービスのシステムイメージ



たシステムを構築する場合、サーバー側と各拠点にVPN装置(ソフト)を搭載するのが普通だ。また多くの場合、各拠点のPCに業務アプリケーションのクライアントソフトの導入が必要となる。

これに対してテレフォンマスターASPサービスでは、サーバー側へのアクセスにPCに標準搭載されているブラウザを活用、SSL暗号化通信(128bit長)を用いることでセキュリティを確保する仕組みが採用されている。ADSLなどのインターネット接続環境さえ整えれば、ユーザーサイドで特別な導入作業は不要なのである。

もっとも、この種のシステムではC/S型のシステムに比べ機能面での制約が生じたり、使い勝手が劣る場合も少なくないが、このASPサービスでは、テレフォンマスターの最新版のV8.5の機能がフルに使えうえ、ユーザーインターフェースもC/S型と同等の使い勝手を実現している。

これを実現しているのが、センター側のサーバーに採用された米Citrix(シトリックス)社の「メタフレーム」の中継サーバー機能である。これは、クライアントとサーバーとの

間でのデータ処理をメタフレームサーバーで代行し、各拠点のPCとの間では、表示や印刷に必要なデータのやりとりのみを行うというもの。これにより、レスポンスを向上させると同時にC/S型のシステムと同等の使い勝手を実現しているのである。

またこのサービスでは、各ユーザーへの特別なサポート体制がとられるが、その場合、ユーザーが見ている画面にサポートセンターからもアクセスできるため、効率的なサポートが可能になる。

## 他の業務システムへの応用も

テレフォンマスターASPサービスは文字通り携帯電話販売管理ソフトのASP版だが、用途はそれにとどまるものではない。

例えば、ユーザーの会計システムのサーバーをデータセンター側で預かることや、顧客に対する携帯電話マーケティングシステムとの連携などをオプションとして提供することなどが検討されているという。

このサービスの開発を担当したテラ、ソリューション事業部の平光宏志氏は、「このサービスの応用範囲は非常に多岐にわたり、様々な可能性を持っている」と意気込む。

テラでは、このサービスを年内に50社、年度末には100社程度のユーザーの利用を見込んでいる。ASPサービスの提供が携帯電話販売管理システムユーザーの裾野を大きく広げることになるのは間違いないだろう。

お問い合わせ先

株式会社 テラ

〒221-0832 神奈川県横浜市神奈川区桐畑3-6

TEL: 045-412-2233

URL: <http://www.terracom.co.jp/>